



會田 涼子氏（近畿大学建築学部助教）

19世紀フィレンツェの首都化における意匠性の表出 —建築家ジュゼッペ・ポッジによる都市改造計画をとおして—

2016年5月14日土曜日 14:00～16:45（入場無料 定員40名先着順、開場 13:30）

大阪大学中之島センター 303講義室（大阪市北区中之島4-3-53）

司会・趣旨説明 岡北 一孝（日本学術振興会特別研究員／大阪大学）

式次第

14:00～14:15 開会挨拶・趣旨説明

15:45～16:00 休憩

14:15～15:45 講演・質疑応答

16:00～16:45 ディスカッション

※17時半より会場近辺で懇親会を予定しております。

講演者略歴

會田 涼子（かいたりょうこ）
近畿大学建築学部建築学科助教
2005年横浜国立大学卒業、2009年東京藝術大学大学院修了、2011年～2012年イタリア政府給費奨学生としてフィレンツェ大学建築学部留学、2014年東京藝術大学より学位取得、2014年より現職

本発表は、19世紀半ばのフィレンツェにおいて建築家ジュゼッペ・ポッジによって主導された都市改造に関するものである。

1861年のイタリア国家統一の後、一時的に首都となったフィレンツェにおいて実施された都市改造のうち、都市中心部の対岸にあたるアルノ川左岸の丘陵地における計画であるコッリ大通りとミケランジェロ広場、右岸の市門周辺の改造を事例とし、首都化に伴うインフラの整備が具体的にどのように行われたか、

イタリア国家統一という文脈の中で首都化がなされていたということが、都市改造にどのように反映しているか、またフィレンツェという都市の固有性であるルネサンス文化が近代都市改造においてどのような関連していたかを、ポッジが設計した各計画の意匠性に着目して見ていく。

Giuseppe Poggi (1811-1901)

ジュゼッペ・ポッジは1811年にフィレンツェに生まれた。父は弁護士、弟エンリコはのちのイタリア王国の上院議員。高等教育を終えた後の1828年から1835年、バルトロメオ・シルヴェストリ (Baltolomeo Silvestri, 1781-1851) の事務所で修行する傍ら、フィレンツェ美術学校に通い、1835年からはフェリーチェ・フランコリーニ (Felice Francolini, 1809-1896) と共同で、技師として裁判所の修復に携わる。1838年から独立して仕事を開始、1843年に建築科の学士を修めた。1864年にフィレンツェ拡大事業に委任されるまで、数多くのパラッツォやヴィラの設計や修復に携わっていた。その代表的な作品として、パラッツォ・ファヴァール (1857年)、パラッツォ・カルカーニ (1857年) などがあり、修復と増改築の仕事ではパラッツォ・グイッチャルディーニ (1843年)、パラッツォ・ストロツィ (1864年)、パラッツォ・ゴンディ (1874年) などといったフィレンツェの歴史的重要性の高いパラッツォを請け負った。1845年にはパリとロンドンへ旅に出ているが、弟エンリコ宛の書簡によってその記録が残されている。1848年のイタリア第二次独立戦争へ出兵、1855年には農事家アカデミーの会員となった。1860年に再度旅行へ出ており、イタリア内の他都市、東ヨーロッパ、フランス、イギリス、ベルギーを訪れた。また、19世紀トスカーナにおける復古期 (レスタウラツィオーネ) の最初期の建築家であるパスクアーレ・ポッチャンティ (Pasquale Poccianti, 1774-1858) の娘と結婚している。

1864年からは、フィレンツェ首都化のための拡大事業に着手。1864年11月22日にゴンファロニエーレ (イタリア国家統一後の行政長官) が、拡大事業の依頼文書を送り、翌23日、依頼受諾の文書をポッジが返信することで都市改造の設計者が決定された。ポッジがこの任に抜擢された理由は明らかにされていないが、行政側に建築系の人材が不足していたことで外部の建築家が要請されたことが、ポッジ自身によって述べられている。また、ポッジが技師としての経験があることや、当時、最も傑出した評価を獲得していたことから、都市拡大事業の適任者であったことは、のちの研究者によって指摘されているところである。その後は、1876年にドウオモのファサードの推進委員会の委員を務めた。1878年にコムーネの破産による心労のため私生活に身を引いたが、その後も州会議には残った。1897年トスカナ建築家・技師組合の名誉会長になった後、1901年に90歳でその生涯を閉じた。

主な著書に、死後、甥によって編纂された *Ricordi della vita e documenti d'arte*, R. Bemporad, Firenze, 1909. がある。これは自らの主要な建築作品、都市設計についてまとめた自伝的著書である。その他、雑誌的性格を持つ小冊子に多くの著述を残している。 *Alcune parole sopra uno dei grandi miglioramenti della città di Firenze*, Coi Tipi di M. Cellini E C., Firenze, 1863. *Piazzale Michelangelo*, Coi Tipi di M. Cellini E C., Firenze, 1872. など。



大阪大学中之島センター
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53
TEL 06-6444-2100

★電車によるアクセス

- 京阪中之島線 中之島駅6番出口より徒歩約5分、渡辺橋駅1番出口より徒歩約5分
- 阪神本線 福島駅より徒歩約9分
- JR 東西線 新福島駅より徒歩約9分
- JR 環状線 福島駅より徒歩約12分
- 地下鉄四つ橋線 肥後橋駅4番出口より徒歩約10分
- 地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅7番または4番出口より徒歩約16分

★バスによるアクセス

- 「JR大阪駅前バスターミナル」
大阪市バス(53系統)→中之島四丁目(旧玉江橋)下車徒歩1分
大阪市バス(75系統)→田蓑橋 下車徒歩1分
- 北港バス(中之島ループバス ふらら)
「大阪大学中之島センター前」下車徒歩約1分

● 大阪大学中之島センターの正面玄関は中之島通に面しております。10階建ての最上階がガラス張りで見える建物が大阪大学中之島センターです。

● タクシーでお越しの際は、近隣施設や建物に中之島センタービル等類似した名称の建物がございますので、「大阪市立科学館北側の『大阪大学中之島センター』」とお伝えください。

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/others/map/index.php>より転載。